

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成29年3月21日(火) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

発表事項

1. 4月1日付け人事異動について
2. これまでで最も古い大正10年の蔵王のアイスモンスターの写真が見つかりました
3. 栗山恭直教授が日本化学会第41回化学教育賞を受賞
4. 地元食材「ヒヨウ」を使ったメニューを学生が考案
5. 「創業体験」で実践的ビジネスを学ぶ科目を開講～人文社会科学部の実践科目～

お知らせ

1. 地域教育文化学部造形芸術コースの学生が主催する△(サンカク)展を開催します
2. 人文学部附属ナスカ研究所国際学術講演会「アンデスとメソアメリカ」
3. 山形大学・山形県による土壌環境放射性物質の共同調査実施結果について
4. 山形大学入学式の取材に対するお願い

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時:平成29年4月3日(月) 11:00～11:45

場 所:法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

学長定例記者会見(3月21日)発表者

1. 4月1日付け人事異動について

学長

こやま きよひと
小山 清人

2. これまでで最も古い大正 10 年の蔵王のアイスモンスターの写真が見つかりました

学術研究院 教授(地球化学・環境化学)

やなぎさわ ふみたか
柳澤 文孝

3. 栗山恭直教授が日本化学会第41回化学教育賞を受賞

学術研究院 教授(化学)

くりやま やすなお
栗山 恭直

4. 地元食材「ヒョウ」を使ったメニューを学生が考案

地域教育文化学部 食環境デザインコース3年

//

さかた ほのか
坂田 陽
なかむら はるか
中村 悠

5. 「創業体験」で実践的ビジネスを学ぶ科目を開講～人文社会科学部の実践科目～

学術研究院 准教授(管理会計)

人文学部法経政策学科 3年

しりなしはま よしたか
尻無濱 芳崇
いわぶち こうだい
岩渕 功大

学長記者会見用資料

山形大学人事異動(平成29年4月1日)

<役員>

職名	氏名	前職
理事	小島 浩孝	琉球大学理事／副学長／事務局長

<部局長>

職名	氏名	前職
小白川キャンパス長	玉手 英利	再任(現・理学部長)
理学部長	玉手 英利	再任

<部課長>

職名	氏名	前職
総務部長	矢作 清	学長付主幹専門員
財務部長	大宮 一弘	秋田大学副理事
小白川キャンパス事務部長	成田 博昭	教育・学生支援部長
教育・学生支援部長	伊藤 雅彦	総務部人事課長
施設部施設整備課長	佐々木 務	施設部施設企画課長
施設部施設企画課長	富田 善公	施設部施設整備課長
鶴岡キャンパス事務長	奥山 利弘	小白川キャンパス事務部総務課長
米沢キャンパス事務部上席専門員(労務担当)	関野 雅彦	米沢キャンパス事務部総務課長
米沢キャンパス事務部総務課長	長南 靖	米沢キャンパス事務部総務課副課長
小白川キャンパス事務部会計課長	滝口 仁	鶴岡キャンパス事務長
小白川キャンパス事務部総務課長	更科 一裕	総務部人事課副課長
エンロールメント・マネジメント部社会連携課長	東海林 守一	エンロールメント・マネジメント部社会連携課副課長
小白川キャンパス事務部就職課長	松田 敦子	小白川キャンパス事務部就職課副課長
総務部人事課長	池野 尚美	小白川キャンパス事務部総務課副課長(人文学部事務室長)
小白川キャンパス事務部教務課長	小山 和佳	小白川キャンパス事務部総務課副課長(理学部事務室長)
教育・学生支援部学務課長	布施 一明	鶴岡工業高等専門学校学生課長

平成29年3月21日
山形大学

これまでで最も古い大正10年の蔵王のアイスモンスターの写真が見つかりました

大正10年1月の蔵王山麓冬期初踏破の紀行文とその際に撮影された蔵王の「アイスモンスター」の写真が慶応大学山岳部「登高行」第3年（大正10年6月出版）より見つかりました。「アイスモンスター」についてこれまでで最も古い、蔵王の樹氷が有名になる前の、写真です。

● 「樹氷」について

「樹氷」には二つの種類があります。

一つ目は、「エビノシッコ」ともよばれているもので、過冷却水滴の着氷によってできます。明治6年の第一回万国気象会議で定められたSilver Thawを明治9年頃に和訳したもので、世界の山岳地帯で見られます。

二つ目は、「アイスモンスター」ともよばれているもので、アオモリトドマツ（オオシラビソ）へ付いた着氷と着雪が結合して氷となることでできます。「アイスモンスター」は大正3年2月15日に蔵王冬季初登頂した神山峯吉らによって発見されました。発見当時は雪が凍ってできると考えられて「雪の坊」や「雪瘤」とよばれていました。一方、「エビノシッコ」についても雪が凍ってできると考えられたことから、「アイスモンスター」は「エビノシッコ」がアオモリトドマツ全体を覆ったものと誤解されて「樹氷」とよばれるようになりました。「蔵王」の地名と「樹氷」という名称は、大正12年頃から宮城県の賽の碓で冬合宿していた旧制二高や東北帝大の山岳部の学生さん達によって全国に広がったと考えられます。なお、「アイスモンスター」が着氷と着雪が結合して氷となることでできていることが分かったのは1960年代の終わりになってからです。

「アイスモンスター」は日本でしか見ることはできません。それは、「アイスモンスター」の生成に、アオモリトドマツのような常緑の針葉樹が必要なこと、一定方向の季節風や風速・気温といった様々な気象条件が必要なためです。1960年頃までは北海道の羊蹄山などや長野県にある志賀高原の横手山や菅平の根子岳でも見られていましたが、温暖化に伴い、1970年代以降は東北地方の一部の山岳地帯（八甲田・八幡平・森吉山・蔵王・西吾妻）でしか見ることはできなくなっています。

● 蔵王冬期初踏破と「樹氷」の写真について

蔵王山麓冬期初踏破は大正10年ですが「アイスモンスター」には気がつかなかったとされており、その後、初踏破時にアイスモンスターの写真を撮影したとの情報（三田幸夫 1973 山溪）もありましたが、写真の所在についての記述はありませんでした。

一方、「エビノシッコ」は石崎光瑤氏の大正10年（山岳）、「エビノシッコ」と「アイスモンスター」と中間的な物は榎谷哲蔵氏の大正13年（山溪）、「アイスモンスター」は昭和2～3年の鉄道省などが最も古い写真であると考えておりました。

その後の調査によりまして、蔵王山冬季初踏破の際の紀行文と、その際に撮影された「アイスモンスター」の写真が見つかりました。

●新資料について

大正10年6月発行の慶応大学山岳部年報「登高行」第3年に早川種三氏の「冬の蔵王越え」と題する紀行文があり、鹿子木員信（かのこぎ かずのぶ）先生と学生7名が大正10年1月8日に峨々温泉から地蔵嶽を經由して高湯温泉へ踏破したことが記されていました。また、初踏破に参加した豊邊國臣氏が撮影した3枚の写真も掲載されており、それらには「アイスモンスター」が写っていました。「アイスモンスター」について、これまでで最も古い写真です。

紀行文には「夕光のかすかな光が尾根の樹氷のみを輝しかけた頃に明日来る事を約して・・・真暗な森道を木根に躓きながら七時半過ぎに（峨々温泉から遠刈田）牧場に帰って来た」、「神社は銀で作られる而もその銀雪は風の為に一面に銀の針を描してある様に思はれる」との記載があります。前者は標高1300mの賽の河原付近から1800mの蔵王山山頂を見上げた際のもので、後者は目の前にある物についてのもので、前者が「アイスモンスター」で後者が「エビノシッポ」と考えることができます。紀行文では「エビノシッポ」を「樹氷」とは考えておらず、「アイスモンスター」を「樹氷」とよんでいることになりましたが、直接よぶような表現とはなっていませんでした。また、「三寶荒神山と高湯温泉に続く尾根は「しらべ（シラビソのこと）」の森林を以て覆われているのが見える。三寶荒神山と地蔵嶽の鞍部の森林は全く雪に覆われて結氷してサンタクロースの森の如き感を懐かせるこの大森林は生きている様に風に吹かれて力強く動いている」との記述があります。「樹氷」を「エビノシッポ」といった一部分ではなく樹木や森林といった群や塊で見えており、「アイスモンスター」を「樹氷」とよぶといった名称もまだ充分には確立していないことが分かります。また、大正10年当時、「樹氷」はアオモリトドマツを覆った雪の結氷でできると考えていたことも分かりました。

大正10年は、蔵王の「アイスモンスター」が全国的に有名となる前のことです。大きくて重いカメラを持参していることから、記録を目的として、準備をして来ていることはわかりませんが、初踏破前から「アイスモンスター」を知っていたかどうかまでは判断できませんでした。また、これまでいわれてきたように冬季初踏破に集中していたため、「アイスモンスター」を見ていなかったわけではない、ということが分かりました。「登高行」によって、蔵王の「アイスモンスター」が広まるきっかけになったと考えられます。

なお、同誌によれば、同山岳部は蔵王初踏破の後、五色温泉に移動し、大正10年1月から3月にかけて、家形山・東大嶺山などにも登頂しています。季節から考えますと、そちらでも「アイスモンスター」に遭遇したと考えられますが、記述や写真はありませんでした。

（お問合せ先）学術研究院・山形大学認定 蔵王樹氷火山総合研究所
教授 柳澤文孝（地球化学・環境化学）
電話 023-628-4648

平成29年3月21日
山形大学

栗山恭直教授が日本化学会第41回化学教育賞を受賞

栗山恭直教授に、公益社団法人日本化学会の第97回春季年会（3月17日）において「第41回化学教育賞」が授与されました。

受賞は、「オールやまがたによる化学普及活動と人材育成」というタイトルで、長年にわたる理科普及活動が認められたものです。

1 化学教育賞について

公益社団法人日本化学会（正会員数 28,284人 平成29年3月現在）が、国際的または全国的視野において化学教育上、特に顕著な業績または功績のあったものに授与する賞です。

これまで63人が受賞し、東北地区で6人目、山形県では初めての受賞になります。

2. 受賞理由について

（1）山形大学SCITAセンターでの化学普及活動

最上地区の小学生4年生を対象とした大学での理科実験をはじめとして、小学生から高校生対象の実験及び教員研修講座を毎年開催しています。

（2）サイエンスカーでの化学普及活動

山形県内の中学校において実施した実験の様子と、訪問中学校の紹介を行う番組をエフエム山形と継続しています。すでに、120校中80校を超える中学校を訪問しています。

（3）石巻等での東日本大震災復興支援イベントの開催

石巻等での復興支援として科学実験イベントを、山形県、宮城県、関東の諸団体、地元の教育委員会と連携し、2011年から11回開催しています。毎回のべ数千人の参加者があります。

（4）化学オリンピック・化学グランプリの支援活動

2010年日本で開催された化学オリンピックの委員として北海道・東北地区を担当し、様々な場所で実験イベントを開催しました。

（5）化学の日の普及活動

10月23日の化学の日の宣伝活動を毎年開催し、本年度は、山形大学附属博物館で学生と共に「元素展」を開催しました。

（6）理科エリート養成講座

山形県教育委員会や各機関と連携し、ヤマガタサイエンスアカデミーを開校しています。今年度、高校生が中心に参加する「山形県サイエンスフォーラム」で小学6年生のアカデミー生が化学部門で3位に入賞しました。

上記の活動が認められ、今回の受賞となりました。

（お問合せ先）

山形大学学術研究院 教授 栗山恭直（化学）

電話：023-628-4586/4506

Mail：kuriyama@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

平成29年3月21日
山形大学

地元食材「ヒョウ」を使ったメニューを学生が考案

飯豊町産業開発公社と、地域教育文化学部（食環境デザインコース）は、飯豊町の地元の食材である「スベリヒユ（ヒョウ）※」の食利用について、検討を進めてきました。

今回は、「スベリヒユ（ヒョウ）」を使ったメニューを学生が考案し、3月2日（木）飯豊町において、試食会を開催、5種類のメニューを提供し、好評を得ました。

飯豊町産業開発公社と、地域教育文化学部食環境デザインコースは、飯豊町の更なる活性化のため、スベリヒユの食利用について検討を進めてきました。

食環境デザインコースの3年生35名が考案したメニューは7種類。その中から5種類のメニューを選び、3月2日に行った試食会にて提供しました。

試食会当日の調理・提供も全て学生達が行いました。

試食会で提供したメニュー

- ・スベリヒユ入りのいなり寿司
- ・スベリヒユ入りのおやき
- ・スベリヒユ入りの豆腐ハンバーグ
- ・スベリヒユ入りの饅頭
- ・スベリヒユ入りの鶏むね肉のトマトソース煮込み

試食会には、町職員や住民の方々に参加いただきました。

今後、地元の皆様に好評だったメニューを、飯豊町の温泉施設で提供する計画もあります。

※スベリヒユ（ヒョウ）について

スベリヒユは、雑草とされるぐらい、地に根強く生え、漢方薬として用いられてきた歴史もあり、食物繊維を多く含んだ食品です。

飯豊町では、これまで、長寿の縁起物として、お正月等に煮物にして食べられてきました。

（お問合せ先）
地域教育文化学部三原研究室
電話 023-628-4420

◆スベリヒユと

鶏むね肉のトマトソース煮込み



鶏むね肉の中に、みじん切りのスベリヒユとトマトソースを和えたものを詰めて煮込んだものです。
トマトソースにもスベリヒユを使用しています。

作成：川村美都，中村悠，野田知見

◆スベリヒユのいなり寿司



ご飯とスベリヒユ，にんじん，しいたけ，鶏もも肉と一緒に炊き込み，味をつけた油揚げに詰めました。
最後に，三つ葉を散らして完成です。

作成：浅野真里奈，阿部知世，阿部瑞希，
太田嵐太郎，佐藤涼子，松本絵利加

◆スベリヒユのおやき



みじん切りにしたスベリヒユ，にんじん，豚ひき肉，しいたけ，たけのこ，春雨を炒めたものを，小麦粉でできた生地に包み，フライパンでこんがり焼きました。

作成：八木遥，千田葉澄，石橋郁美，
下村素代花，石井あさひ，皆川結，宮本千穂

◆スベリヒユのマドレーヌ



生地のみじん切りのスベリヒユを混ぜ込み，オーブンで焼き上げました。

作成：佐藤美咲，滝澤佳歩，廣野知佳

◆スベリヒユの虎焼き



虎焼きの皮に、すり鉢で細かくしたスベリヒユを混ぜ合わせました。
餡と生クリームを挟んで完成です。

作成：斉藤由花子，坂田陽，菅原萌子，
吉川瑛理

◆スベリヒユの豆腐ハンバーグ



水で戻したスベリヒユと豆腐，しいたけ，にんじん，鶏ひき肉を混ぜ，フライパンで蒸し焼きに。最後に醤油ベースのたれに絡めます。

作成：伊藤菜穂，東海林知佳，高内あすか，
中村笑菜，野口健太，藤島和貴，本間直美

◆スベリヒユのお饅頭



饅頭の生地に、すり鉢で細かくしたスベリヒユを混ぜ、蒸しました。
中には、さつまいも餡が入っています。

作成：足立恵理奈，梅津夏美，大野千春

平成29年3月21日
山形大学

「創業体験」で実践的ビジネスを学ぶ科目を開講 ～人文社会科学部の実践科目～

人文社会科学部では、専門科目の新たな取組として地域や企業の課題を考える実践科目を必修化します。平成28年度には、先行して学園祭への出店を通じて起業について学ぶ「創業体験プログラム」を人文学部で実施しました。この成果をもとに、平成29年度はさらに内容を充実させ「ビジネス創業実践演習」を開講します。

1. 創業体験プログラム

山形大学人文社会科学部では専門科目の新たな取組として地域や企業の課題を考える実践科目を必修化します。特徴的実践科目の一つとして「ビジネス創業実践演習」があります。この科目は、疑似株式会社を興し、実際に投資家（学生及び教職員）から出資を募り、出資金を元手に八峰祭（大学祭）で商品を販売、株主への利益の配当を行います。疑似株式会社の設立、運営を通じ、株式の発行、販売活動、利益配当など、創業に関するプロセスを実践的に学びます。平成28年度は、「創業体験プログラム」として先行開講しました。

2. 28年度の成果

28年度は会計学演習・管理会計演習の学生を中心に、水餃子を販売する「(株) K.D. ファイヤー」を興しました。必要な資金を獲得し、学園祭当日はほぼ計画通りの売上を達成、株主に利益の配当を行うことができました。



図1 学園祭当日の様子

3. 今後の計画

本年度の成果をもとに、平成29年度は「ビジネス創業実践演習」としてさらなる内容の充実を目指します。山形大学人文社会科学部では、専門科目における実践的科目の充実を通じた地域社会への人材供給を目指しています。

(お問合せ先)

学術研究院 准教授

尻無濱芳崇 (管理会計)

電話 023-628-4275

E-mail snh@human.kj.yamagata-u.ac.jp

平成29年3月21日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 地域教育文化学部造形芸術コースの学生が主催する△(サンカク)展を開催します

地域教育文化学部・造形芸術コース現3年生と大学院1年生による課題研究発表展「△(サンカク)展」を開催します。例年「プレ卒展」として開催していたものですが、今年度から名称を改めて開催することとしたものです。

日時：平成29年3月23日（木）～4月14日（金）9：30～17：00

会場：山形大学附属博物館

2. 人文学部附属ナスカ研究所国際学術講演会「アンデスとメソアメリカ」

日時：平成29年3月28日（火）13：00～16：20

会場：小白川キャンパス人文学部1号館3階301教室

3. 山形大学・山形県による土壌環境放射性物質の共同調査実施結果について

山形大学は、山形県と共同で平成24年度から山形県内の土壌環境放射性物質の定点調査を行っています。今年度までの定点調査結果について、詳細は別添資料をご覧ください。

4. 山形大学入学式の取材に対するお願い

平成29年度入学式を山形県体育館で挙行いたします。

日時：平成29年4月4日（火）10：30開式

会場：山形県体育館（山形市）

※これまでにお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎ 留学生を対象とした「山形県内企業合同説明会」を開催します

山形大学、山形県、ジェトロ山形などが主催し、留学生のため山形県内企業合同説明会を開催します。

日時：平成29年3月22日（水）13：00～16：30

会場：山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館交流ラウンジ

平成29年3月21日
山形大学

造形芸術コースの学生が主催する △（サンカク）展を開催します。

地域教育文化学部・造形芸術コース現3年生と大学院1年生による課題研究発表展「△（サンカク）展」を開催します。

当展覧会は昨年の課題研究の成果を発表する場になると同時に、来年2月に開催予定の卒業展覧会に向けたものとなっております。例年「プレ卒展」という名称でおこなってきた展覧会ですが、今年度は「△展」という名称に改めて開催することにしました。「△」とは、山形の「やま」と、私たちの作品がまだ「発展途上」であることを意味しています。いずれ点が増え、大きな「○」になることを目指し、日々制作をおこなっています。

絵画や彫刻はもちろん、写真やインスタレーションなど様々な分野の作品を展示予定です。

日時：平成29年3月23日(木)～4月14日(金)9：30～17：00
(土日祝日は附属博物館の休館日のためお休みです。)

会場：山形大学附属博物館

(お問合せ先)
山形大学附属博物館
電話 023-628-4930
造形芸術コース
メール ymgt.z.k.142130@gmail.com



3/23(木)～4/14(金) ※土日祝は休館日

OPEN/9:30 — CLOSE/17:00

山形大学造形芸術コース・課題研究発表展

twitter : @sk142130

mail : ymgt.z.k.142130@gmail.com

会場：山形大学附属博物館

tel : 023-628-4930





山形大学人文学部附属ナスカ研究所国際学術講演会

アンデスとメソアメリカ

地上絵 / 絵文書、人身供犠、神殿 / 都市

Andes and Mesoamerica



2017年 3月 28日 [火] 午後 1:00~4:20

会場 山形大学(小白川キャンパス)人文学部1号館3階301教室

一般公開 (参加無料 / 申し込み不要 / 定員: 200名 [先着順])

使用言語: 日本語、英語 (通訳あり)

ジョン・ベラーノ

John Verano
(チュレレン大学)



「古代ペルーにおける人身供犠: 新たな発見と新たな課題」(日本語通訳あり)

Human Sacrifice in Ancient Peru: New Discoveries and New Questions

村上達也

(チュレレン大学)



「メキシコ中央高原における古代都市の起源: トランカレカからテオティワカンまで」

ジェイソン・ネスビット

Jason Nesbitt
(チュレレン大学)



「アンデス文明の形成と遠隔地交流」(日本語通訳あり)

Early Interregional Interaction in the Ancient Andes

エリザベス・ブーン

Elizabeth Boone
(チュレレン大学)



「絵文書に描かれたアステカ社会の歴史」(日本語通訳あり)

Painted Histories of Aztec Mexico

坂井正人

(山形大学)



「新発見の地上絵と保存活動: 山形大学人文学部附属ナスカ研究所の研究成果より」



○山形駅東口より車方約2キロ○山形駅東口より徒歩約25分○山形駅東口より県庁前行きバスで約5分…南高前(山大入口)下車10分○仙台駅前行り山形行き高速バスで約60分 南高前(山大入口)下車10分 ※山形～仙台間の高速バスは平日 便・土日・祝日666便運行しています。

問い合わせ先 — 山形大学人文学部事務室 山形市小白川町一丁目 4-12 TEL 023-628-4203

主催: 山形大学人文学部附属ナスカ研究所、新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」計画研究 A03「アンデス比較文明論(研究代表: 坂井正人)」
協力: 古代アメリカ学会

平成29年3月21日
山形大学

山形大学・山形県による土壌環境放射性物質の共同調査実施結果について

山形大学は、山形県と共同で平成24年度から山形県内の土壌環境放射性物質の定点調査を行っています。今年度までの定点調査結果をご報告します。

☆背景

福島第一原発事故に伴う県内における放射性物質の沈着状況の基礎データを押さえておくことは、山形県の環境を考えていく上で重要なことです。

そのため、山形大学は、山形県と共同で土壌環境放射性物質の分布状況の調査を継続して行っています。

☆調査期間

平成24年度から平成28年度までの5年間

☆調査方法

県内を5キロメッシュに区切り調査地点を定め、地表面からの深さ（0～5cm、5～10cm）の二層の土壌をサンプリングし、測定分析を行っています。

山形県が土壌サンプリングを担当し、山形大学および山形県環境科学研究センターが土壌サンプルの測定分析を行っています。

平成24年度は134地点、平成25年度は99地点の、土壌中放射性セシウムの濃度推移を調べました。

平成26年度からは30地点について定点調査を行っています。その中の8地点については平成24年度から5年間継続して、土壌中放射性セシウムの濃度推移を調べています。

☆ 調査結果

（土壌0～5cm試料の放射性セシウム濃度（各年の12月31日に補正した値））

- ・ 庄内地区は、1定点のみ18Bq/kg（平成28年）である。その他の定点では不検出である。
- ・ 最上地区は、1定点が116Bq/kg（平成24年）、55Bq/kg（平成26年）、26Bq/kg（平成27年）、71Bq/kg（平成28年）と推移している。その他の定点では7.1Bq/kg（平成28年）と不検出である。
- ・ 村山地区は、283kBq/g（平成24年と平成25年の各測定点から求めた平均濃度）、180Bq/kg（平成26年）、193Bq/kg（平成27年）、161Bq/kg（平成28年）と推移している。
- ・ 置賜地区は、256Bq/kg（平成24年と平成25年の各測定点から求めた平均濃度）、127Bq/kg（平成26年）、81Bq/kg（平成27年）、90Bq/kg（平成28年）と推移している。
- ・ 5年間の濃度変化の様子は地点により異なっている。

各測定点の土壌中放射性セシウム濃度は、山形県のホームページに公表されています。

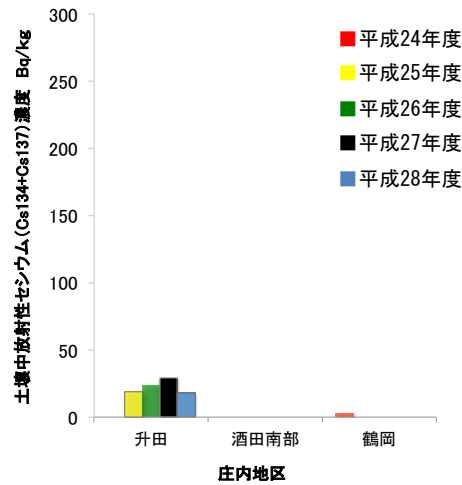
（お問い合わせ）

理学部放射能測定チーム 門叶(教授)・櫻井(客員教授)・乾(教務職員)

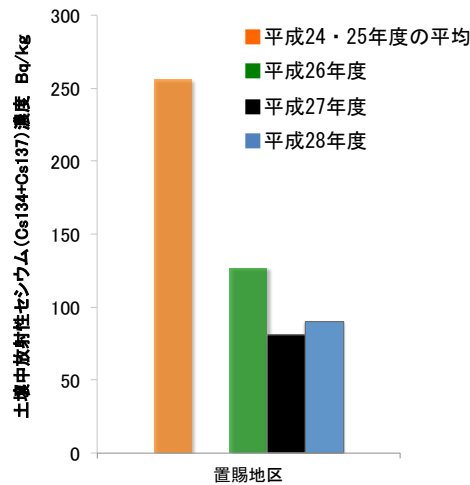
電話：023(628)4663

平成28年度 山形県における土壌環境放射性物質の調査地点(30地点)

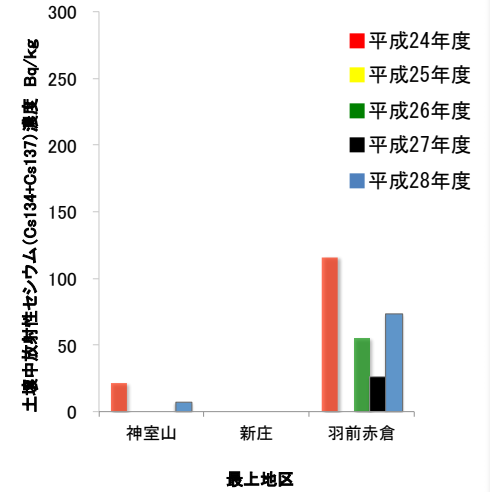
庄内地区 (0-5cm) 定点3地点の推移



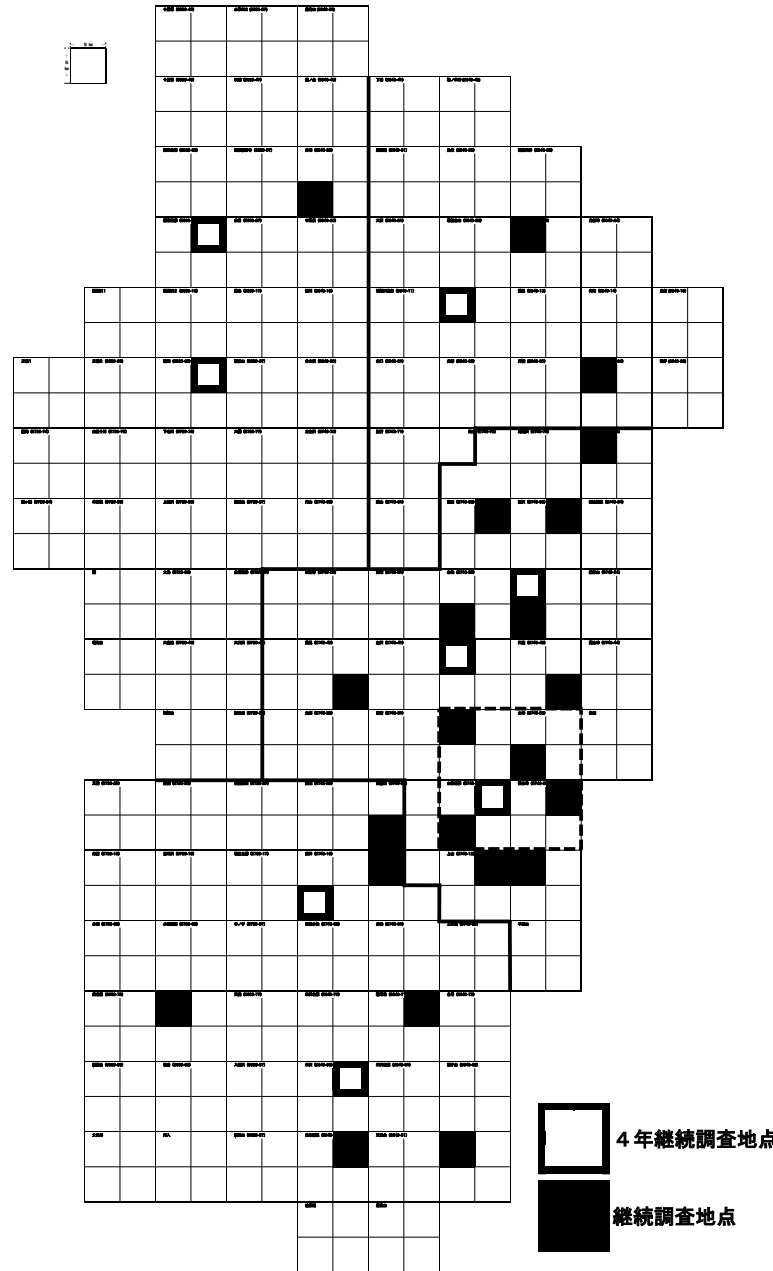
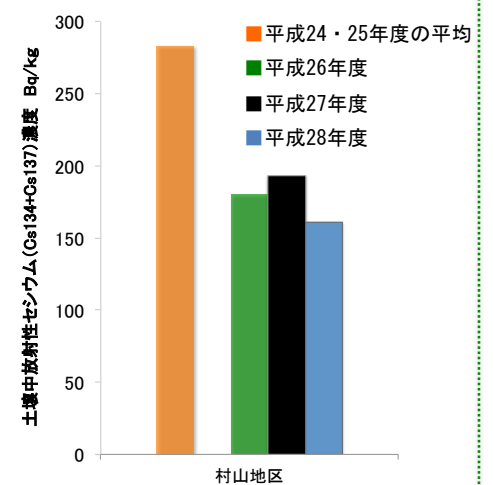
置賜地区 (0-5cm) 定点平均の推移



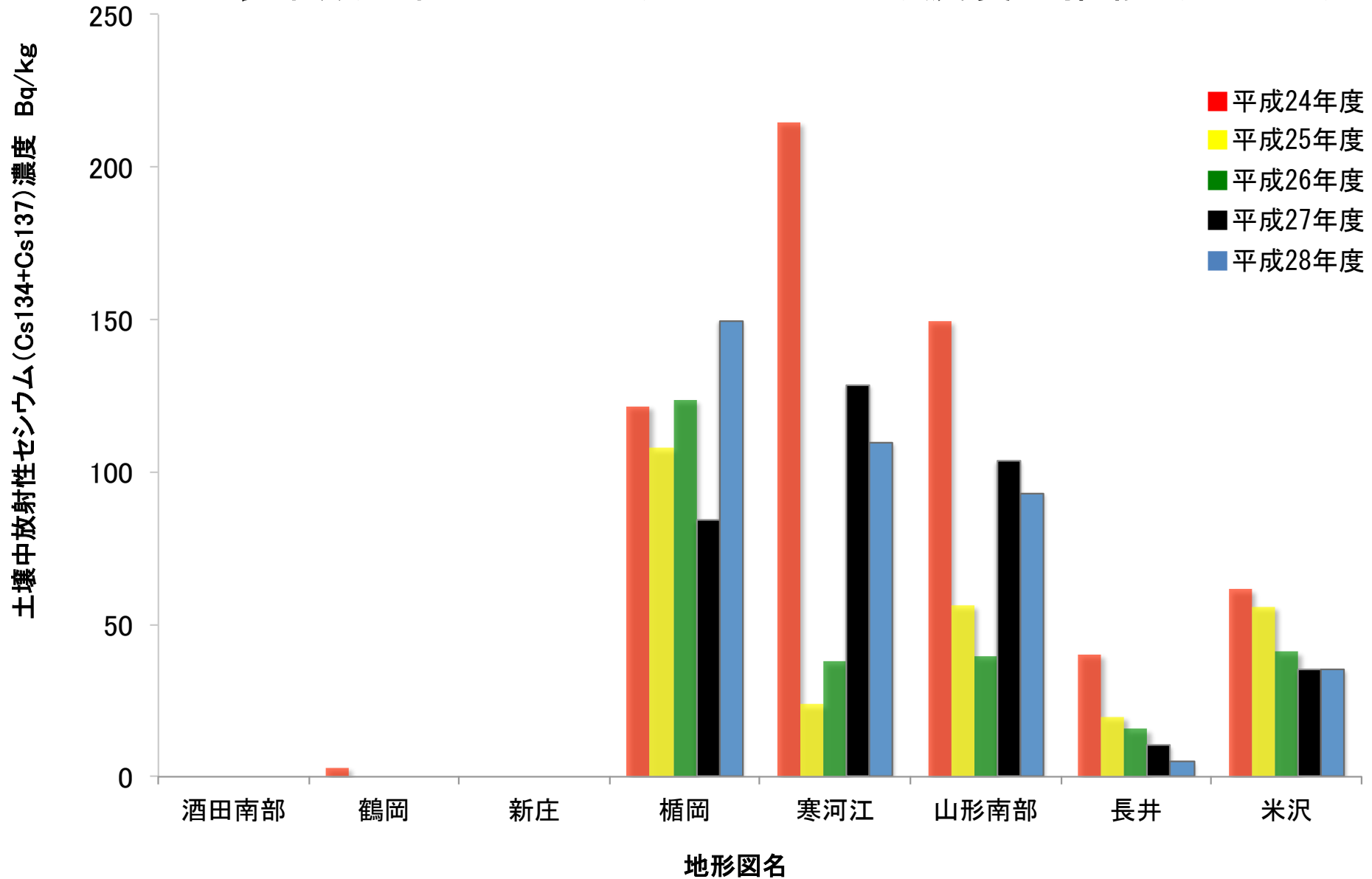
最上地区 (0-5cm) 定点3地点の推移



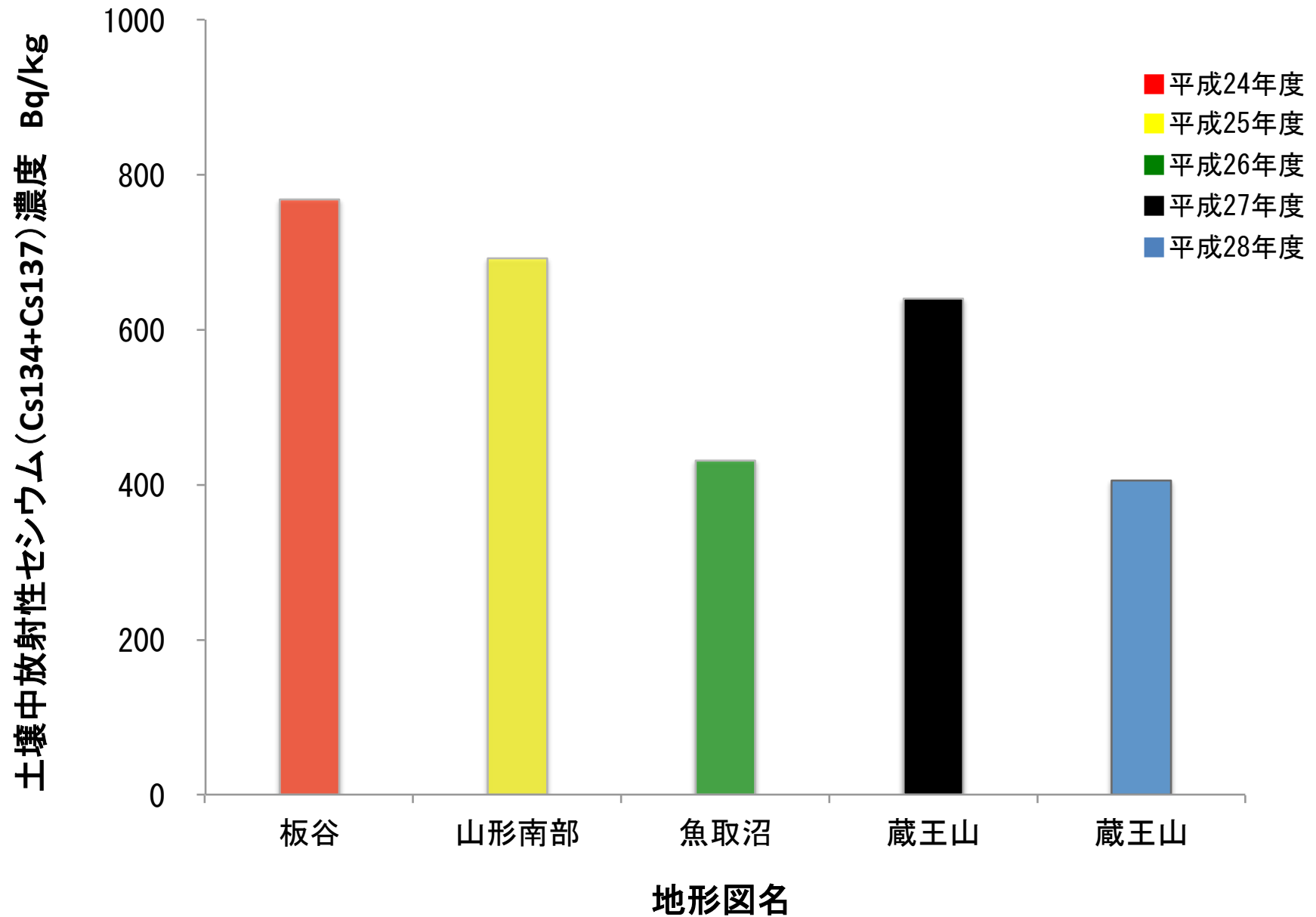
村山地区 (0-5cm) 定点平均の推移



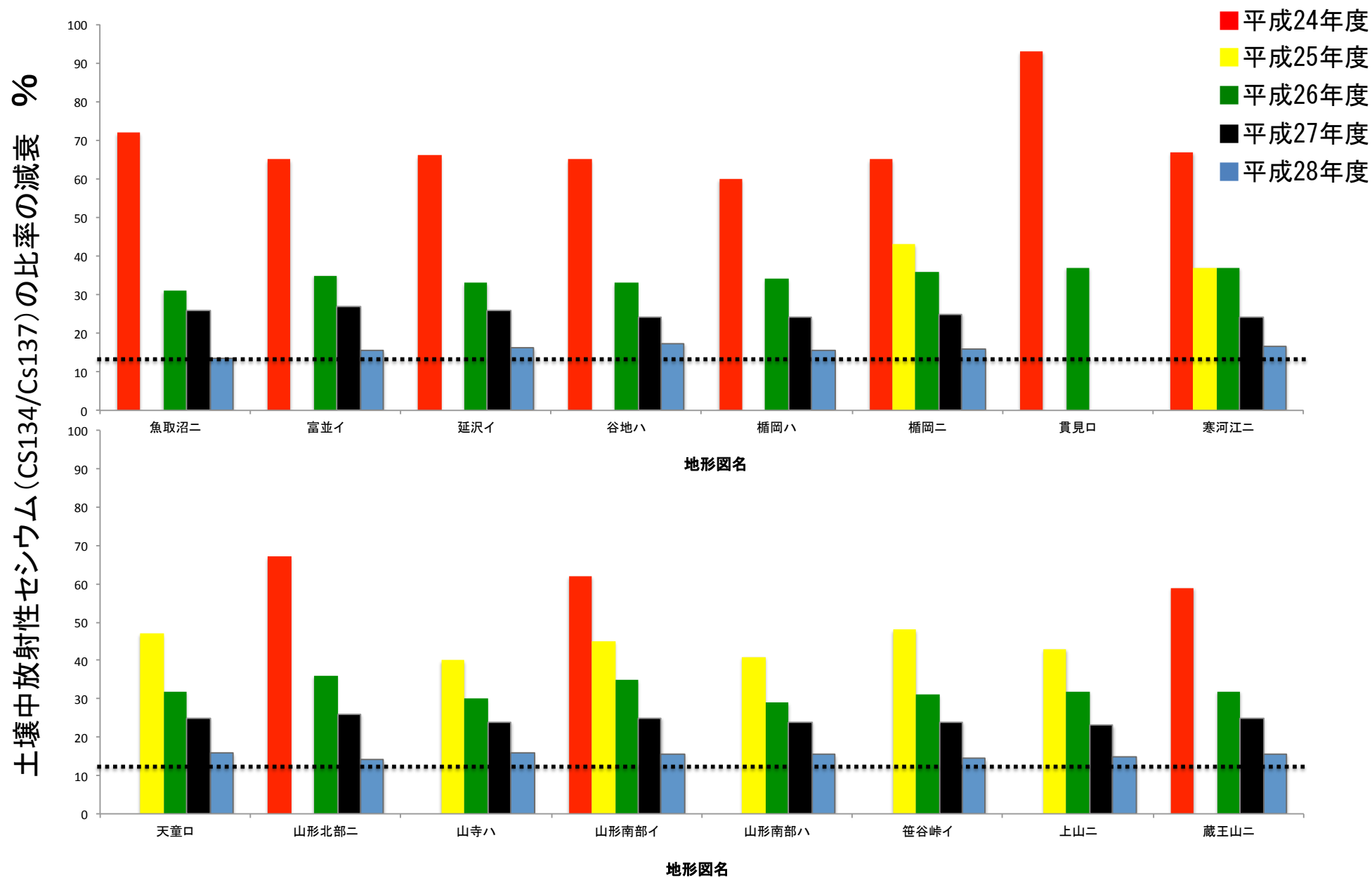
5年継続調査地点(8地点)の 土壌中放射性セシウム(Cs134+Cs137)濃度の推移(0-5cm)



各年度の調査地点の中で最も濃度の高かった地点（0-5cm）



村山地区 土壌中放射性セシウム(Cs134/Cs137)の比率の減衰 (0-5cm)



平成29年3月21日

山形大学

山形大学入学式の取材に対するお願い

平成29年度入学式を下記のとおり挙行いたします。
式当日の取材に際しては、壇上での撮影は差し支えありませんが、式進行の妨げとなるような行為は慎んでいただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。
また、学長告辞については当日に配布いたしますが、式終了後に公表願います。
なお、各附属学校の入学（園）式につきましても、併せてお知らせいたします。

◆平成29年度山形大学入学式について

日 時：平成29年4月4日（火）10：30開式

会 場：山形県体育館（山形市）

式次第：

1. 開式のことば
2. 山形大学大学歌斉唱
3. 学長告辞
4. 入学生宣誓
5. 学部長紹介
6. 閉式のことば

※上記の式典終了後、「YU Do Best奨学生授与」と学生サークルによる花笠踊りの披露等の歓迎セレモニーを予定しております。

◆平成29年度附属学校入学（園）式について

●附属幼稚園

日 時：平成29年4月12日（水）10：00開式

会 場：附属幼稚園遊戯室

●附属小学校

日 時：平成29年4月10日（月）9：30開式

会 場：附属小学校体育館

●附属中学校

日 時：平成29年4月10日（月）13：30開式

会 場：附属中学校体育館

●附属特別支援学校

日 時：平成29年4月11日（火）10：00開式

会 場：附属特別支援学校体育館

（お問い合わせ）総務部総務課
Tel. 023-628-4006